



1-1, タンポポとうさぎ 1969年

かわいいものが好き— いわさきちひろ展

2019年3月1日(金)～5月13日(月)

かわいい ちいさい みんなあつまれ

子ども、花、ねこ、犬、小鳥、蝶……。いわさきちひろが好んで描いたのは、私たちの身近にあるちいさなもの、かわいいもの。ちひろは「平和で、豊かで、美しく、可愛いものがほんとうに好きで……」と語っており、そのことは、作品の数々にもよくあらわれています。彼女の絵は、決して大きな声で主張をするようなものではありませんが、周囲をふわっと明るくするような、いのちの輝きが描き出されています。ちひろの絵のかわいさの秘密はどこにあるのでしょうか。本展では、育児書のためのカットから絵本の原画まで約80点を展示し、ちひろの絵に描かれた「かわいい」を探ります。



1-2, チューリップとあかちゃん 1971年



1-3, ランドセルをしょって並んで歩く一年生 1966年

展覧会名 かわいいものが好き—いわさきちひろ展

会期 2019年3月1日(金)～5月13日(月)
○開館時間=9:00～17:00
(4月27日～5月6日のGW期間は18:00まで開館延長)
○休館日=第4水曜日

会場 安曇野ちひろ美術館 展示室1・2

料金 大人800円/高校生以下無料
団体(有料入館者20名以上)、65歳以上の方、学生証をお持ちの方は700円/障害者手帳ご提示の方は400円、介添えの方は1名まで無料/視覚障害のある方は無料/年間パスポート2500円

主催 ちひろ美術館



1-4, 蝶と乳母車に乗ったあかちゃん 1971年

展示会の見どころ 無垢なしぐさ

「その辺に赤ちゃんなんかいると自分のひざの上に置いておきたい」と語っていたちひろ。母親として、画家として、ちひろはあかちゃんや子どものあらゆるかわいいしぐさを捉えています。「育児の百科」や、絵本『もしもしおでんわ』などに描かれたあかちゃんや子どもの姿に注目します。

わんわん にゃー

犬もねこも（鳥も）飼っていたことのあるちひろは、絵のなかにもさりげなく、人間のそばにねこや犬を登場させていました。主役でなくても気になる存在である彼らは、ふわふわして、つぶらな目でこちらを見えています。あなたにとっては、ちひろのねこ犬、どちらがかわいいでしょう？

ちいさいはかわいい

枕草子に「ちひさきものはみなうつくし」と清少納言が書いたように、私たちは今も、小さいものをかわいい、と感じる傾向があります。ここでは、てんとう虫をはじめとする、普段あまりスポットライトを浴びることのない、ちいさきものたちを紹介します。

出展作品数 約80点

主な出展作品 チューリップとあかちゃん 1971年／ランドセルをしょって並んで歩く一年生 1966年／「どこかで はるが」 1960年／「もうすぐ はる」 1964年／青い鳥と少女 1972年 ほか

関連イベント ●ギャラリートーク

展示室で作品を見ながら、学芸員が展示の見どころなどをお話します。

日時：毎月第2・4土曜日 14：00～14：30 会場：安曇野ちひろ美術館 展示室1・2 参加費：無料(入館料のみ) 申し込み：不要(参加自由)

図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。

ご希望の方は、別紙「プレス用作品画像データ借用・誓約書」をご覧ください。

※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。 ※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。

※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。 ※掲載紙/誌をご送付ください。



1-5, 青い鳥と少女 1972年



1-6, 「どこかで はるが」 1960年



1-7, 「もうすぐ はる」 1964年

＜企画展＞ — 童画運動の旗手 —
やす たい
ねこの画家 安泰展

2019年3月1日(金)～5月13日(月)

1920年代後半から「コドモノクニ」に絵を描き始め、童画の第2世代といわれる仲間たちのなかで中心的な役割を担ってきた安泰(やす たい) (1903～1979)。戦後も真っ先に童画の再興に取り組み、リアリズムに根ざした愛らしい動物たちを、子どもの本に描き続けました。なかでも、安の描く子ねこのかわいらしさは秀逸です。ねこを愛してやまない画家の心と、鋭い観察眼によって、ねこのごく自然な、ありのままの姿が表現されています。

本展では、特に得意としたねこの絵本を中心に、戦前から半世紀にわたる安泰の作品を展示します。また、安が中心的役割を果たした「新ニッポン童画会」や「日本童画会」などの童画運動の貴重な資料も展示し、日本の戦前から戦後にかけての童画界の動向も紹介します。



2-1, 安泰 「スイッチョねこ」(フレーベル館)より 1975年

戦前戦後の日本の童画を牽引した、
心やさしい動物画家



2-2, 安泰 子ねこ 1970年代

展覧会名	＜企画展＞ 一童画運動の旗手— ねこの画家 <small>やす たい</small> 安泰展
会期	2019年3月1日(金)～5月13日(月) ○開館時間＝9:00～17:00(4月27日～5月6日のGW期間は18:00まで開館延長) ○休館日＝第4水曜日
会場	安曇野ちひろ美術館 展示室4
料金	大人800円／高校生以下無料 団体(有料入館者20名以上)、65歳以上の方、学生証をお持ちの方は700円／障害者手帳ご提示の方は400円、介添えの方は1名まで無料／視覚障害のある方は無料／年間パスポート2500円
主催	ちひろ美術館
協力	安 和子



2-3, 安泰 「ぼくたちは子ネコ」(毎日新聞社)より 1974年

展示会の見どころ 愛しいねこたち

駆け回り、じゃれ合い、丸くなって眠る、子ねこたち——。1960年代半ばから、安はねこの絵本を数多く手がけています。3回にわたって描いた『スイッチョねこ』や、『どこからきたの』『ぼくたちは子ネコ』などの絵本の原画、最晩年の未完の絵本『ねこことねこが』の習作などを展示します。

写実の画家

安は子どものころから動物たちに親しみ、画家を志してからは、動物の骨格や生態を知ろうと動物園に通いつめて、デッサンを重ねています。庭に野良ねこの親子が住むようになってからは、膨大な数のねこのデッサンを描き、絵本の制作に活かしました。

戦前・戦後の童画運動の旗手

戦前・戦後の時代に、安は松山文雄ら革新的な思想を持つ仲間たちとともに「新ニッポン童画会」や「日本童画会」を結成。画家の著作権擁護の運動にも関わり、中心的な役割を担いました。日本の童画運動を牽引しながら、その絵は常に穏やかであるところに、安の人間性があらわれています。



2-4, 安泰 ハリカン 絵雑誌「コドモノクニ」9巻9号(東京社)より
1930年(印刷物)

作家プロフィール



安泰 Tai Yasu 1903～1979

福島県に生まれ、6歳で本籍地の茨城に移る。1921年に一家で上京。日本美術学校で日本画を学び、学生時代から「コドモノクニ」などに絵を描く。1932年に松山文雄等と新ニッポン童画会を設立。第二次世界大戦後、1946年に日本童画会の結成に参加。1950年、第1回小学館児童文化賞受賞。1964年にいわさきちひろ等と童画ぐるーぷを結成。主な絵本に『スイッチョねこ』(フレーベル館)、『どこからきたの』(童心社)、画集に『安泰画集 ねこ』(童心社)などがある。1979年没、享年76歳。

出展作品数 約120点(資料含む)

主な出展作品 絵雑誌「コドモノクニ」(東京社、印刷物)より 1920年代後半～40年代前半／『どこからきたの』(童心社)より 1966年／『スイッチョねこ』(フレーベル館)より 1966年・1971年・1975年／『らいおんのぼうや』(フレーベル館)より 1967年／『めんどりとこむぎつぶ』(フレーベル館)より 1969年 ほか

関連イベント

●展示関連企画 Instagram うちのねこ展

3月1日より開催する「<企画展>—童画運動の旗手—ねこの画家 やすたい 安泰展」、「ちひろ美術館コレクション展 ねこ・ねこ・ねこ」にあわせ、みなさまが撮影された自慢のねこの写真をInstagramで募集します。寄せられた写真のなかから、当館スタッフが(ねこだけに)気まぐれに選んだものを、安曇野ちひろ美術館Instagramアカウントで紹介します。参加された方にはもれなくプレゼント！ふるってご応募ください。＊詳細はInformationページをご覧ください。

●ねこだらけのおはなしの会

日時：4月20日(土) 11:00～ 参加費：無料(入館料のみ) 申し込み：不要(参加自由)

●ギャラリートーク

展示室で作品を見ながら、学芸員が展示の見どころなどをお話しします。

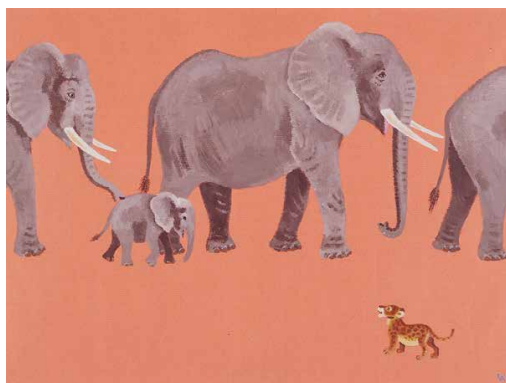
日時：毎月第2・4土曜日 14:30～15:00 会場：安曇野ちひろ美術館 展示室4 参加費：無料(入館料のみ) 申し込み：不要(参加自由)

図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。ご希望の方は、別紙「プレス用作品画像データ借用・誓約書」をご覧ください。



2-5, 安泰 ねこの親子 1970年代



2-6, 安泰 『らいおんのぼうや』(フレーベル館)より 1967年

ちひろ美術館コレクション展

ねこ・ねこ・ねこ

2019年3月1日(金)～5月13日(月)



3-1, ヤヌシ・グラビャンスキ 『カヤのための詩』より 1969年



3-2, ユゼフ・ヴィルコン 『ブラウンさんのネコ』(らんか社)より 1987年

世界のねこたち大集合！ 絵本画家の描くさまざまなねこ

古くから人とともに暮らし、身近な存在だったねこ。今でもブームになるくらい愛されている動物です。もちろん、絵画や絵本のなかにも数多く描かれてきました。ちひろ美術館コレクション(世界34の国と地域207名の画家による27,200点/2017年3月現在)のなかにも魅力的なねこの作品がたくさんあります。

本展では、ユゼフ・ヴィルコンの『ブラウンさんのネコ』、和田誠の『ねこのシジミ』など、さまざまな技法やデザインで描かれた、当館自慢のねこをご紹介します。



3-3, ヴィクトル・ドゥヴィードフ 魚を釣る猫 1961年

展覧会名 ちひろ美術館コレクション展 ねこ・ねこ・ねこ

会期 2019年3月1日(金)～5月13日(月)
○開館時間=9:00～17:00
(4月27日～5月6日のGW期間は18:00まで開館延長)
○休館日=第4水曜日

会場 安曇野ちひろ美術館 展示室3

料金 大人800円/高校生以下無料
団体(有料入館者20名以上)、65歳以上の方、学生証をお持ちの方は700円/
障害者手帳ご提示の方は400円、介添えの方は1名まで無料/視覚障害のある方は無料/年間パスポート2500円

主催 ちひろ美術館

展示会の見どころ 多様なねこの表現

やわらかい毛の手触りが感じられるねこ、俊敏な動きを見せるねこ、生命力を感じる力強いねこ。水彩やパステル、エッチング、コラージュなど、さまざまな画材や技法を使って、世界各国の画家たちが工夫をこらして描いたねこの表現に注目します。

変身するねこ

ねこは絵本の主人公になっても大活躍。あるときは旅をして、あるときはいたずらをして、あるときは擬人化して、物語を盛り上げます。画家の創作のなかで変身し、デザインされたいろいろなねこを紹介します。

出展作品数 約50点

主な出展作品 ヤマシ・グラビャンスキ（ポーランド）『カヤのための詩』より 1969年／ユゼフ・ヴィルコン（ポーランド）『ブラウンさんのネコ』（らんか社）より 1987年／クヴィエタ・パツォウスカ（チェコ）猫 1979-85年／荒井良二 『モンテロッソのピンクの壁』（集英社）より 1992年／和田誠 『ねこのシジミ』（ほるぷ出版）より 1996年 ほか

関連イベント ●展示関連企画 Instagram うちのねこ展

3月1日より開催する「<企画展>—童画運動の旗手—ねこの画家 ^{やすたい}安 泰展」、ちひろ美術館コレクション展「ねこ・ねこ・ねこ」にあわせ、みなさまが撮影された自慢のねこの写真をInstagramで募集します。寄せられた写真のなかから、当館スタッフが（ねこだけに）気まぐれに選んだものを、安曇野ちひろ美術館Instagramアカウントで紹介いたします。参加された方にはもちろんプレゼント！ふるってご応募ください。

*詳細はInformationページをご覧ください。

●ねこだらけのおはなしの会

日時：4月20日（土）11:00～ 参加費：無料（入館料のみ） 申し込み：不要（参加自由）

図版について 本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。ご希望の方は、別紙「プレス用作品画像データ借用・誓約書」をご覧ください。

※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。

※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。

※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。

※掲載紙／誌をご送付ください。



3-4, クヴィエタ・パツォウスカ 猫 1979-85年



3-5, 荒井良二
『モンテロッソのピンクの壁』（集英社）より 1992年



3-6, ヤマシ・グラビャンスキ 『カヤのための詩』より 1969年



3-7, 和田誠 『ねこのシジミ』（ほるぷ出版）より 1996年



展示関連企画

Instagram うちのねこ展

「<企画展>一童画運動の旗手—ねこの画家 ^{やすたい}安泰展」、^{やすたい}「ちひろ美術館コレクション 展 ねこ・ねこ・ねこ」の開催にあわせ、みなさまが撮影されたご自慢のねこの写真をInstagramで募集します。寄せられた写真は、当館スタッフが（ねこだけに）気まぐれに選んだものを、安曇野ちひろ美術館Instagramアカウントでも紹介します。写真を投稿された方には、もれなく、カフェドリンク券をプレゼント！ ふるってご応募ください。

応募方法

安曇野ちひろ美術館公式Instagramアカウントをフォロー後、「#ちひろ美術館うちのねこ展」のハッシュタグをつけて、ご自身が撮影されたねこの写真を投稿してください。

☑ 安曇野ちひろ美術館 [chihiroartmuseum_azumino](https://www.instagram.com/chihiroartmuseum_azumino)

応募特典

ご来館時、投稿画面を受付でご提示いただいた方には、会期中(3/1~5/13)にお使いいただける当館絵本カフェのドリンクチケットを差し上げます。

展示関連イベント

ねこだらけのおはなしの会

4月20日(土) 11:00~

参加費：無料(入館料のみ)
申し込み：不要(参加自由)



「しょうがくしんこくこ 2年上」(光村図書)より 1967年



おつむてん 1971年



ベビーカーでお出かけしよう!

ファーストミュージアムデー

3月16日(土)、4月18日(木)
各日 10:30~11:30

ファーストミュージアムとは、生まれてはじめて訪れる美術館。あかちゃん絵本のおはなしの会や、美術館ガイドツアーなど、あかちゃんといっしょに美術館をゆったり楽しみましょう。

対象：0歳~2歳の子どもの保護者
参加費：無料(入館料のみ)
申し込み：要事前予約(HP・TELにて受付)

入館無料デー

日ごろの感謝を込めて、長野県および美術館近くの市町村にお住まいのみなさまに、入館無料で楽しみいただけるご優待日です。

3月10日(日) 松川村民特別優待デー
3月24日(日) 長野県民入館無料デー
6月9日(日) 池田町・生坂村民入館無料デー
6月16日(日) 大町市民入館無料デー
6月23日(日) 松本市民入館無料デー
11月10日(日) 安曇野市民入館無料デー
11月17日(日) 白馬・小谷村民入館無料デー
12月1日(日) 長野県民入館無料デー



開館記念日

4月19日(金)

この日ご来館の先着100名に、ポストカードをプレゼントします。

●ギャラリートーク

展示室で作品を見ながら、学芸員が展示の見どころなどをお話します。

日時：毎月第2・4土曜日 14:00~ちひろ展 / 14:30~企画展
参加費：無料(入館料のみ) 申し込み：不要(参加自由)

●おはなしの会

季節や展示にあわせた絵本の読み聞かせや素話を、親子でお楽しみください。

日時：毎月第2・4土曜日 11:00~11:30
参加費：無料(入館料のみ)
申し込み：不要(参加自由)



ちひろの水彩技法ワークショップ

にじみのキャンドルシェードをつくろう

3月2日(土) 15:00~16:00 ※この日は19:00まで開館延長

松川村・キャンドルドリームの開催にあわせ、キャンドルのシェードを水彩絵の具のにじみで作ります。完成後、安曇野ちひろ美術館にキャンドルを飾りましょう。

対象：4歳以上(未就学児は保護者同伴) 参加費：200円(入館料別)
定員：20名 申し込み：要事前予約(HP、TELにて)

お知らせ

2019年の
開館情報

* 3月1日~12月15日(ちひろの誕生日)まで開館します。
* 休館日は第4水曜日(GW・8月は無休)となります。

安曇野ちひろ美術館

chihiro.jp

お問い合わせ 安曇野ちひろ美術館 広報担当 田邊 ^{くろやなぎ} 畔柳・入口
〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原3358-24
TEL.0261-62-0772 FAX 0261-62-0774
E-mail:apublicity@chihiro.or.jp